

## 相愛大学研究シーズ集

シーズ名	食事調査における食物摂取頻度調査の利便性の検討
所属	人間発達学部 発達栄養学科
氏名	上田 秀樹
【概要】 近年のエネルギー及び栄養素摂取状況のうち、脂質などの栄養素は過剰摂取傾向を示している。一方、ビタミンや微量栄養素は摂取不足傾向を示している。このことは過不足が存在すると考えられる食生活の評価を行う場合に食事調査法の検討が重要である。食事調査法には秤量食事記録法や食物摂取頻度調査法など多様であるが、その長所や短所を考慮したうえで用いる必要がある。殊に、食物摂取頻度調査法は目的に応じた新たな調査法が開発されており、被調査者の負担の軽減や習慣的な栄養素摂取量の評価に適している。本研究は食物摂取頻度調査法を中心に秤量食事記録法との比較を行い、食物摂取頻度調査の利用方法や測定バイアス要因、さらに、信頼性・妥当性の検討を目的とする。	
キーワード	食事調査法・食物摂取頻度調査法・地域食生活調査